

親切運動の取組について

学校名 滑川市立早月中学校

生徒数 319名

1 親切運動の取組の紹介

〈特別老人保健施設の訪問〉

日頃お世話になっている地域の方々に感謝の気持ちを込めて、特別老人保健施設を訪問し、交流会を行っている。生徒会執行部やJRC委員会が中心となって企画・運営をし、当日は施設の方に新川古代神という踊りを披露した。ボランティア活動に興味をもつきっかけとなり、意義ある活動となっている。



〈資源回収〉

春と秋の年2回、生徒と地域の方が協力して、地域の家庭からでた新聞紙や缶、瓶等を回収する活動である。早朝よりたくさんの生徒が部活動ごとに分かれて活動をし、汗を流した。SDGsの視点と関連づけ、資源の大切さを生徒一人一人が学ぶことができた。この活動等を通して、地域の方やその他たくさんの方とコミュニケーションを取り、社会の一員として地域を考えるよい機会となっている。



〈プチボラ〉

生徒会執行部が企画している、月1回程度、朝に駐輪場の枯れ葉拾いやふれあいホールのごみ拾いをしました。何気なく使っている場所に、こんなにもゴミが捨てられているのかという驚きとともに、自分たちが汚すことのないよう気を付けなければならぬと考えるきっかけとなっている。



2 親切運動に取り組んで

・取組の成果

生徒主体の活動が定着し、その伝統が継承されてきている。近年では活動内容を生徒会執行部が中心となって見直し、より生徒が活動しやすく、前向きに活動できるように工夫している。中でも年2回実施している資源回収は、地域の方と協力しながら行ったことで、生徒が社会の一員であることを自覚するきっかけにもなった。今後もこれらの活動を継続することで、学校や地域に貢献する姿勢を継承していきたい。

・課題と今後に向けて

ボランティア活動に取り組む生徒に限られてしまっており、ボランティアに対する生徒個人の差が感じられる。全校生徒の啓発と意識向上を図りたい。また取組の形骸化を防ぐため、活動の趣旨を生徒に理解させるとともに、質の高い活動の継続や活動内容の工夫をしていく必要がある。